

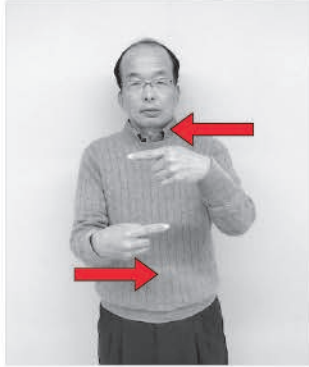


# み～んなと **手** で **話** そう 簡単手話入門①



手話は日本語や英語と同じ「言語」のひとつです。手や指、表情で気持ちや考えを伝えることのできる手話を学んで、手話が身近な言語となるよう皆さんでいっしょにやってみましょう。

## 【あけて おめでとう】



両手人差し指を、左右から引き寄せて上下に置く。

【1月1日】という意味



指を上に向けて、つまんだ両手の5指を上へ上げながら開く。

【おめでとう】という意味

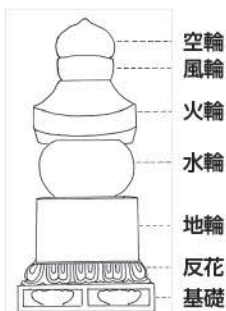


**五輪塔について**  
昨年4月から11月までのみなの歴史散歩では、板碑や庚申塔、己巳塔など町内の石塔について紹介しました。今回は五輪塔についてです。  
五輪塔は平安時代から造られはじめ、寺院の落成や仏像の開眼、また板碑と同じように死者の冥福や、生前に自分の死後の安楽を祈るために造られました。17世紀に姿を消した板碑とは異なり息が長く、現在でも墓石として製作されています。町内では約210基が確認されています。図をみてみましょう（日下部朝一郎『石仏入門 日本史研究入門叢書1』に加筆）。これは、五輪塔のデザインが規格化された鎌倉時代の代表作を実測したものです。上から空・風・火・水・地の五輪に分かれますが、これは世界が五つの要素から成り立っているという真言密教の教えを体現したものと説かれています。後の時代には1つの石から全体を彫り出す一石五輪塔と呼ばれる小型のものも現れますが、空と風、火、水、地の4つを別々の石で造り、組み合わせるのが一般的です。

**五輪塔** 写真は大字皆野にある五輪塔で、塩はけの五輪塔と呼ばれています。明治期の廃仏毀釈で廃されたといわれる宝珠寺跡地にあるもので、地輪には「明応三年（1494年）五月十五日禅尼」の銘があり、室町時代の作であることが分かっています。禅尼の文字から、亡くなった女性の供養のために造られたと推察することもでき、同じく町指定文化財である金沢出牛地区の西福寺の五輪塔と並び、同時代を代表する五輪塔と見ることが出来ます。



写真：塩はけの五輪塔



図：五輪塔（鎌倉時代）

倉の作品は軒の両端が垂直に切られているのに対し、塩はけの方は内側へ切り込んでいくのが分かります。この傾向は時代とともに強くなり、近世になると軒も大きく反り返るようになります。水輪と地輪に関してはあまり違いがみられませんが、空・風輪と同じく、時代の経過とともに縦長になる傾向にあります。総じていえば、重心が低くどっしりとした鎌倉、頭でっかちながら華奢な室町といえるでしょう。

考古学と呼ばれる学問では、今のように実物や図を比較して違いを洗い出し、項目としてまとめます。この違いが、さまざまな調査で見え出した遺物の新しさ、古さを決める大きな手がかりとなります。塩はけの五輪塔は自身が文化財であるだけでなく、文化財を守る上でも大切な役割を果たしてくれているのです。

**みな**の**歴史散歩**  
No.19  
塩はけの五輪塔ごりんとう（町指定文化財）  
社会教育担当 望月 暁